

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
 E-mail：junpai@sekinomiya.com

一の宮巡拝は自分発見の場

今年は桜の開花が予想外で、東京では19年ぶりに4月初めに急激に冷え込み、雪が降り、桜と雪が同時に見られるという相い変わらずの異常気象であった。しかしながら若いリクルートルックの新入社員の晴れやかな姿を見ると日本列島が活気に満ち溢れ元気をとりもどした、いつも通りの春を感じた。

さて、本年9月8～10日に開催するアメリカ・シアトルでの「一の宮シンポジウム&社叢百景展」(テーマ・自他共生)に先立ち昨年2月から始めた3度目の一の宮巡拝も現在残り数社で完拝することになった。今年の2月末には長崎県壱岐・対馬の一の宮を巡拝して、壱岐の会員有馬黎子氏と占部英幸氏にお会いした。占部氏とは2003年の「壱岐国ルネッサンス」以来であったが、昨日のように思えた。

この日は壱岐島唯一の勝本温泉の平山旅館に宿をとり、天手長男神社の谷口正博宮司、西日本新聞社の山下芳仁氏とも会談した。

最近壱岐は観光に力を注いでいて、「神話の島・壱岐から日本を学ぼう」とのテーマで「お宝巡りの島やど塾」を開講して11名のメンバーが壱岐の神話や伝説などの語り部となって様々な活動を行っている。特にこの宿の女将平山宏美氏は塾の連絡窓口として、事務局を勤められ、社団法人日本放送作家協会の後援で著名な講師陣による「創作朗読劇講座」を開催されている。彼女の活動は他にもNPO法人日本子守唄協会共催による「日本子守唄フォーラム in 壱岐」(平成19年5月19～20日開催)の実行委員としても寸暇を惜しんでご活躍されていることである。『メダカの学校』や『雪の降るまちを』など童謡

や歌曲を2000曲以上も作曲された故中田喜直先生から「童謡や子守唄をいっぱい聞かせて育った子は決して悪い人にはならない」ということを私は教えて頂いたことがある。この言葉を思い出し、平山宏美氏の活動に大いなるエールをおくった。

一方3月初め所用で熊本県水俣市の、水俣市立水俣病資料館を訪ね、水俣病の語り部として良く知られている杉本栄子氏にお会いする機会があった。彼女は昨年NHKの「きょうも元気でわくわくラジオ」という番組に出演され水俣病の悲惨な過去の50年の思い出を語られていた。放送後は大きな反響を呼び

再放送も何度かなされたという。彼女が涙しながら語った言葉で「人を怨んではいけない。今は「のさり」と思いね」「人様は変えられないから、自分が変わる」というのが私の心に深く刻みこまれた。また、神も仏もないどん底の生活状態にありながら彼女は「神も仏も信じて恨まずに今日まで生きてきました」と。

最初の一の宮巡拝を行っている時にはそれぞれの神様に色んなお願い事をするが、全国の108社も参

拝すると、いつしかお願い事をするよりもお参りさせて頂いたことにありがたい感謝の念がわいてくる。自分の健康や家族の健康などお願いすることはいくらでもあるが、まず日本が、そして世界が平和でより良い社会であってほしいと思う気持ちが込み上げてくる。これが一の宮巡拝の最大の意義であると思われる。前述の二人の女性平山宏美、杉本栄子両氏の活動に大いなる共感を得た。感謝。

一の宮巡拝会代表世話人 関口行弘



壱岐国一の宮 天手長男神社

入会を希望する方は下記へご連絡ください。

一の宮巡拝会事務局

〒666-0111兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
 電話：072-791-5158 ファックス：072-791-5159

一の宮巡拝会東京事務局

〒111-0055 東京都台東区三筋1-12-12(株)アドワーク内
 電話：090-1658-0138 <03-5823-3901・社>

一の宮巡拜会
会員の店場

この頁は会員の皆様と創り
上げて行きたいページです。
一の宮巡拜の折々、感じ
た事を文に、視点を変えて
見た写真など事務局まで
お寄せください。



相模国一の宮・鶴岡八幡宮



神宮の神馬(晴勇号)



伊賀国一の宮・敢國神社



蝦夷国一の宮・北海道神宮



武蔵国一の宮・氷川神社千木・鯉木



安房国一の宮・州崎神社



甲斐国一の宮・浅間神社



伊勢国一の宮・椿大神社・お滝霊光

バックの写真：上／宇治橋西詰、北側第二柱・神坐・擬宝珠
下／神宮・内宮神楽殿、龍虎石の手水



御手洗川に架かる玉の橋
越後国一の宮・彌彦神社・ご神橋



越後国一の宮・居多神社



越中国一の宮・気多神社



豊前国一の宮・宇佐神宮

思わぬ恵 (東大阪市 Y・M)

いつもは、春日様との神縁が有り、氏神様は春日神社、一の宮は枚岡神社、そして奈良の春日大社へと折々にお参りしています。今年は、介護ヘルパーで身障の方を住吉大社に初詣に案内する機会に恵まれました。日々慌ただしく働くなか、ゆったりとした時の流れの中で、爽やかな風、暖かい日の光に、春日様とはまた違う神気を感じ、神々のお働きに応じて感じる自然の恵みを有難く感謝いたしました。一度は住吉さんにお参りに行きたいと思っていた事が思わぬ形で叶って嬉しかったです。

道彦 (堺市 佐藤 セツ子)

備前國一の宮 石上布都魂神社に参拝の折、白いワンちゃんが車の窓をトントンと叩いて迎えてくれました。人懐っこい目で見上げては、神社のある方へ案内してくれる様子です。後に付いていくと何度も立ち止まったり、振り返ったりしながら道案内をしてくれました。途中迷ったりするとワンワンと吠えて呼んでくれました。参拝を終えて帰ろうとすると、磐座のある場所に案内しようとするので、「もうしんどいから帰ります。」と言うと、下の駐車場まで、先導役を務めてくれました。「普段は括っているんですが驚かせてごめんなさいね。」と総代さんの奥様が出てこられました。参拝者が増えてくると犬も賢くなって、道彦をしてくれるようになるんですね。空海が三鈷杵を求めて高野山に入ると、2匹の犬が道案内をしてくれた逸話を思い出し、導きがあって守りがある、思い出深い楽しい経験をさせて頂きました。



ご神体山三輪山

で沢山の方々との出会いがありました。それは、私にとって気付きであり成長の糧となっています。一の宮の大神様との神縁に感謝がたえません。これからも、マイペースで巡拝をして行きます。

神体山へ登る (関東・東北ブロック世話人 櫻井 正憲)

神の降臨する山、神体山は、一の宮神社においても、富士山や白山を始めとして、いくつも存在する。優美さ・険しさあるいは火山としての恐ろしさ故に、古代人が神威を感じたであろう山々を登る、これもまた一の宮巡拝で味わえる大いなる喜びだ。山頂に本宮を置いている雄山、鳥海山はもちろん、憧れの山であった三輪山、弥山、開聞岳などの初登頂を目指した。幸い、いずれの山も快晴のもと、登頂に成功、頂上を示す標示板を前にしての写真撮影が、一の宮巡拝の達成感を盛り上げてくれた雄

山と鳥海山。三輪鳥居の拝観というおまけ付きの三輪山。山頂付近に巨大な奇岩が幾重かに横たわり、これが神体山たる由縁かと納得させられた弥山。姿の優美さに拘わらず、登りにくい、頂上からの素晴らしい眺望を与えてくれた開聞岳。それぞれに楽しい思い出を残してくれた。一の宮神社と

それぞれの神体山の関係については、入江孝一郎氏の著書「諸国一の宮」に簡潔にまとめられている。普段余り耳目に接する事のない山も多いが、かえって惹き付けられ、それらの山への「挑戦」がこれからの楽しみである。

一の宮巡拝を縦糸に (奈良市 氏家 悦男)

平成13年秋、会津は岩代國一の宮 伊佐須美神社からマイドライブで一の宮巡拝の旅を始めました。一の宮巡拝を縦糸に、周辺途中の名所・旧蹟を横糸に織る巡拝の旅は、なかなか前に進みません。それでも、巡拝のお陰で、富士山・立山連峰雄山の登頂、壱岐・対馬への渡海、北海道アイヌの祭祀遺跡ともいわれるチャシ、沖縄の祭祀の場、御嶽(ウタキ)を知ることも出来ました。一の宮巡拝は道なかば、これからもマイドライブの旅は続きます。

神縁に感謝 (京都市 辻 早喜子)

巡拝を始めて、5年が経ち、約半分の一の宮神社を巡拝できました。『日本の聖地は火と水が豊富です。何と云っても火山列島の水穂の国だからその火の国、水の国の聖地を火と水で、身も心も魂も清めながら聖地巡礼。』(神様たちと暮す本、抜粋)神社や聖地といわれている所を訪れると、爽やかにスッと心身ともに静まります。一の宮巡拝会が縁



神雲十字

一人旅を楽しむ (橿原市 坂部 征彦)

この1月、四国の一の宮巡拝社と式内社巡りの一人旅を楽しみました。自分で作った細かい旅程表に沿って土佐神社、田村神社、大麻比古神社を巡拝。土佐では、一説で二の宮とされる朝倉神社、讃岐では金比羅宮、鳴門ではもう一つの一の宮と主張する一宮神社等の式内社を参拝。土佐神社は、もともと葛城の神である一言主神が主祭神、その由緒に思いを馳せる。大麻比古神社では坂東駅の発車時刻が迫っていたため走りに走ってなんとか間に合う。

祈らずとも神は護らん (大阪市 昆田 里美)

大阪天満宮梅まつりに行って来ました。私の氏神様でもある菅原道真公が亡くなられたのは、延喜3年(903)2月25日、道真公の干支を調べてみると、奇しくも今年と同じ亥年でした。「亡くなられてから92廻りめの亥の年なんだ。」と思うと更に菅原大神様に親しみを覚えました。盆梅展会場に展示されていた「水鏡天神像」、御作『こころだに まことの道にかないなば 祈らずとも 神は護らん』のお歌を拝見し、何と云う有難いお言葉かと感動いたしました。



大神神社からスタート (京都市 太田 美智子)
 平成13年1月28日、大神神社のご朱印が私と一の宮巡拝会との出会いとスタートでした。「巳さんの神社」と言われている大神神社に、巳年生まれの年女の私が新年のご挨拶を



大和三山と三輪大鳥居

兼ねた興味本位の初詣でした。社頭で一枚の巡拝会会報との出会いがあり、スタンプラリーのような気持ちと朱印集めなんて楽しそう、という軽い気持ちで入会をしました。当時は子育て真っ最中で、日々の生活に追われながらの巡拝でした。少しずつ御朱印が増えるにつれ、膚で感じる事実があります。参拝を済ませ境内に佇んでいると、清清しく心落ち着いた自分に気付かされます。また、巡拝会で出会う人々からは、多くの分野の専門知識を得るなど書籍への関心が強まり、序々に変化している自分がそこにいました。

巡拝出来る環境に、感謝し謙虚でいなければと反省しながら、次は何処へ行こうかと計画を立てている私が、知らない間に心豊かになっている事に気付きました。その後の平成17年6月13日、我が家の家宝として必ずや代々伝えてほしいと願い、千年御朱印帖をスタートさせました。こうして喜びのうちに一の宮巡拝をしている自分の姿が不思議でもあります。まだまだ道半ばですが、目に見えない大きな存在に守られている喜びを実感しながら、感謝の手を合わせる生活を楽しんでおります。

一の宮巡拝会への期待 (東京都 栗田 好明)
 ひとりではできないことができる。これが一の宮巡拝会の賜物である。正式参拝もひとりでは面映い。宮司様のおはなしも一般には伺えない。また一の宮の情報が収集できるのも

うれしい。「全国一の宮巡拝のすすめ」が刊行されたが、神職の在・不在の記述は貴重な資料である。

さらに欲をいえば、一の宮の参拝にあたっての体験などが日常的に交換できるとよい。それにはホームページ・ブログ・メーリングリストなどが効果あるのではないか。一の宮巡拝会としてオーソライズされたサイトがほしいところである。一の宮と呼ばれる神社の存在は奥が深いようだ。総社をお参りするとうらびれたお社が多い。昔の栄光のあとが残るだけにかえってもの悲しい。一の宮やその関連神社の活性の一端をになおうという一の宮巡拝会への期待は大きい。

御朱印が増えるたびに (大阪府 平野 真知子)

平成11年、勢いだけで一の宮巡拝を始めたものの思うに任せずの毎日を送っていた頃、私の味方は社頭で頂いた巡拝会の会報でした。第一号からの読者で会員さんの投稿文など参考になる事がいっぱい。入会のきっかけはいつも「只」で頂いているのでは申し訳ないと思った事で、今も会にはお世話になっています。そして会報以上に強い味方が一の宮御朱印帳で、御朱印が増える度に次への「やる気」が湧いたものです。今、完成した御朱印帳を開くと御朱印を頂いた時の光景がよみがえります。抜けている会報を分けて頂いたり、氏子さんにお茶やお菓子をご馳走になったり、近くの駅まで車で送って頂いたり、かと思えば4時だからとすげなく御朱印を断られたり……。

神職の方もお忙しいとは思いますが、ご縁があれば御朱印帳を携え、全国の神社を巡ってみられてはいかがでしょうか。

一の宮巡拝は、同行二人ならぬ同行二神。神のまにまに身の行方をゆだねる巡拝の旅。皆様の「巡拝の声」が、励みになればと思い寄稿をお願いいたしました。普段出会えない有志の声を読んでいただき、共感をもって巡拝する事が出来れば幸いに存じます。今後も、皆様の玉響(たまゆら)の投稿をお待ち申し上げております、寄稿いただきありがとうございました。(中瀬)



出発日：2007年5月23日(水)1泊2日
 旅行代金：おひとり様 59,000円 1人一室
 57,000円 2人一室
 集合：JR新大阪駅一階団体待合室
 8:20集合(予定)
 JR新神戸駅乗車8:52発(予定)

コースのお申し込み・お問い合わせは下記へどうぞ

朝日旅行 大阪支社 電話：06-6231-1531
 神戸 電話：078-391-0951
 京都 電話：075-213-4565

受付時間：9:30~17:50

土曜日は電話受付のみ9:30~12:30まで。日・祝日は休ませて頂きます。

7月以降の予定

- 第23回 7月18~19日 (越後国一の宮 居多神社・弥彦神社、佐渡国一の宮 度津神社)
 - 第24回 9月19~20日 (隠岐国一の宮 水若酢神社・由良比女神社)
 - 第25回 11月14~15日 (信濃国一の宮 諏訪大社<下社 春・秋>、上野国一の宮 貫前神社)
- 講師 / 生谷 陽之助(一の宮巡拝会顧問・男山文庫主宰)

小説「全国一の宮」調元祖

橘 三喜 (第二十九回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

桑名の宿で島上平之進と一夜をあかした三喜は、寝ながらほんの少時、明日の行き先に迷った。

それは、江戸へ行くべきか、はたまた平戸へ戻るべきか、の思案であった。

江戸行きには三つ目的がある。

第一は主君にお目にかかって直接に神社再建の御下命を承うること。第二は、神社再建後ただちに諸國一の宮巡拝に出発の御許可。それに加えて島上平之進を同行させるお許しを得ること。そして第三に、妻良枝と会うこと。である。

妻とは、主君から壱岐神社の探索を命ぜられ、江戸屋敷内のお長屋を拝借して住まわせてより三年有余、別居したままなのである。つまり会ってもいないし夫婦の会話もしていないのだ。女の身ゆえ、また、子を成しておらぬゆえ、さぞ心細く寂しい日々を送っているであろうとは思いますが、大事を持った身ゆえ、相済まぬと兼々思っている三喜なのである。従って主君にお目にかかるついでと言っては申し訳ないが、妻と会いたい、と考えたのだ。

一方、江戸へ行かず直ちに壱岐に戻り、神社再建に着手する道。本来なら、すでにご下命を頂戴しているゆえ臣下としてこの道をとるべきなのであろうが――

三喜のとった方途は、江戸行きであった。

翌朝早々に平之進が、

「先生、いづこにいらっしゃいますか」

と訊いてきた。三喜が、「江戸へ参ろうかと思う」と告げると平之進は、

「承知仕りました。お供いたします」

と応え、なぜ江戸なのか、江戸へ行って何をなされるおつもりですか、などと細いことなど訊こうとはしなかった。

この事から三喜は、平之進が今後の行動、身の振り方の総てを三喜に預け切った心境、つまり弟子として共に行動しきる決意を固めているのを知り、喜びと信頼をおぼえ非常なる颯快をおぼえたのであった。

「この男と一緒になら、お社再建はもとより、諸國一の宮巡拝も必ず成功するであろう。と。」

さて、桑名から江戸までは九十六里の道のり、普通なら十日もあれば行けるが、三喜は平之進への一の宮巡拝の予行もかねて、道中の諸社に巡拝していった。その為、江戸へ着くのに十六日もかかった。時に延宝元年(1673)四月であった。

主君鎮信公はすぐに三喜の面接を許してくれた。そして神社再建のご下命をあらためて戴いたあと、三喜が諸國一の宮の巡拝のお許しと、その間のお

暇を願い出ると、公は、

「諸國の一の宮を巡拝、と。この國には一の宮が何社あるのか」

と、やや驚いたふう尋ねてきた。「目下は六十八社とおぼえております。連社も巡りますので、巡拝、或いは百社を超えるかもしれませぬ」「百社を。で、何日を要する所存か」「三年、あるいは五年かと……」

この時点で三喜は軽く考えていたわけではなく、まさか十九年もかかるとは予想だにしていなかったのだ。

結局、鎮信公は「病などに気を配れよ」と激励の言葉をそえて許諾してくれた。

三喜はすぐに平之進を連れて行くための、彼のお暇を願い出た。少々便乗した願いだとは思ったが、この場をはずしてあらためてだと難しくなる、と考えたからである。

これに対して鎮信公は、「わしはよいが、係りの者に相談せよ」と応えた。

三喜は御前を退ると、ただちに平之進を俱なつて江戸家老をおとずれた。「殿がよいと仰せなら」と、これも平之進の上司諸役らにはかって許された。

(つづく)



『全国一の宮巡拝のすすめ』完成!!

(一の宮巡拝の手引き冊子)



B5判 20頁 中綴じ
頒価 300円

(巻末付録に「神社参拝の作法などについて」を記載)

新生一の宮巡拝会世話人会が全力投球で企画した小冊子です。巡拝を実践中の方には、ご朱印帳と共に良いパートナーとしていただく為のガイド書として又巡で終ることなく巡拝を続ける会員・会友、新たに巡拝を实践しようとしている方々の為に、地図入り、簡潔な内容でより新しい情報を挿入した手引き書として完成いたしました。御朱印帳・千年和紙(手漉き和紙)で特別仕立ての御朱印帳と共に愛用していただける事を心より願っております。



全国一の宮所在地・社名入り地図

本文の一部

一の宮巡拝会 事務局便り

過日、御朱印帳の記帳にあたり、ある神社の勘違いによりページを間違えて記帳されてしまうと云う事態が起こりました。過去にも数件あったように記憶してありますがなぜこの様な事が起こるのでしょいか。神職さんの巡拝者に対する心のどこかに安易に思っているところがあるのではないだろうか...と考えさせられることがあります。

今回は出雲手漉き和紙の御朱印帳でも有り、修正に大変手間取りましたがどうか約束の時間までに差替えて修復する事が出来ました。護持者のOさんはさぞ残念な事だと思えます。その神社の記帳者の責任であることにはまちがいないのですが、私達巡拝者も御朱印をお願いする側として十分な注意と配慮が寛容かと思われまます。御神印は一の宮神社大神様の御神魂です。付箋などを添付するなどして十分注意してお願いますように致しましょう。御朱印はただのスタンプラリーの印ではありませんので、神社側でも十分意識して記帳して頂くようお願い致します。

一の宮巡拝会

入会申し込み受付中!

数千年の昔からご鎮座する諸国の一の宮神社。そこには癒しの森が広がり悠久の昔から今日まで連綿と受け継がれて来ました。日本人の叡智と日本人の心の再発見の場となる一の宮とご神縁を結びましょう。

全国一〇八社を巡拝しお互いの情報交換を行う本会に是非ご入会ください。(年会費三〇〇〇円)ご入会の方には小冊子(上段紹介)「全国一の宮巡拝のすすめ」頒価三〇〇円を無料配布いたします。

入会などお問い合わせは各事務局へ。
(会員の方へ)新会員をご紹介ください。

平成十九年度 一の宮巡拝会
会員継続と新年度会費納入のお願い

平成十九年度の会員継続と会費納入が未だの方はお早めに指定の振り込み用紙にて納入をお願い申しあげます。会費は年4回発行の会報・年刊誌「一の宮巡拝」第2号の発行、その他会活動の諸元費となりますのでご協力の程お願いいたします。

ご入金の確認後、新年度の会員証を送付させていただきます。会員ナンバーの変更はありません。

一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内

〒六八六-0111

兵庫県川西市大和東一十三丁

電話 〇七二-七九二-五二五八

FAX 〇七二-七九二-五二五九

一の宮巡拝会東京事務局(株)アドワーク内

〒二二一-0055

東京都台東区三筋一十二丁

電話 〇九〇-六五八-〇三三八

FAX 〇三三-五八三-三三九〇(社)

FAX 〇三三-三三八六五-二二三五

●入会金及び会費について

一般維持会員 年会費 三〇〇〇円

賛助会員 一口二〇〇〇円(何口でも可)

寄付金 お志し

●会費等お振込み先

郵便振替(大阪) 〇〇九九〇-一五八二五二五

平成十九年度世話人

代表世話人 関口行弘、副代表世話人 塩

原輝昭、近畿ブロック 中瀬光雄、中国・四

国ブロック 木下雅晴、関東・東北ブロック

櫻井正憲、中部ブロック 大谷武司、北海道

ブロック ダスティン・キッド